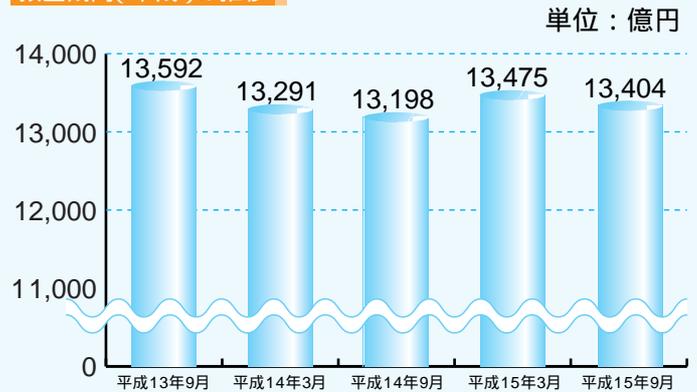


## 預金残高

個人・法人部門は安定的に増加、地公体部門は減少

預金の期末残高（銀行・信託勘定合計）は、期中70億円減少の1兆3,404億円となりました。部門別では、預金全体の約9割を占める個人および法人預金は期中123億円増加しましたが、地方公共団体などの公金預金については予算執行の進捗などから減少しました。しかし、前年同期末比では個人預金を主因に206億円増加しました。

預金残高(末残)の推移



## 貸出金残高

例年の季節パターンから減少

貸出金の期末残高（銀行・信託勘定合計）は、年度上半期には事業性資金需要が低下するという例年の季節パターンなどから、期中221億円減少し1兆1,047億円となりました。しかし、前年同期末比では個人ローンが順調に増加していることなどから314億円増加しました。

貸出残高(末残)の推移



## 個人ローン

引き続き順調に増加

当行は「ローンならりゅうぎん」というブランドイメージの確立を目指し、個人ローンの販売に積極的に取り組んできました。特に、「ガン保障特約付住宅ローン」は、県内で唯一当行だけが取り扱う商品であり、発売開始以来15カ月で期末残高が85億円に達するなど、お客さまから高い評価を受けています。

消費性の個人ローンについても、主力商品の「ローン革命15」や「おまとめローン」、「カードローン速30」などの販売が好調に推移しています。

個人ローン残高(末残)の推移



(注)グラフ上の値は各項目とも切り捨てて表示しており、合計と一致しません。